



1_桜吹雪が舞う中上演された高玉芝居 2_ライトアップされ、夜の暗闇にきれいに浮かぶ殿入ザクラ 3_八乙女種まきザクラの下では、町内で活動する音楽グループ「いとはん」が心落ち着く音を奏でた 4_駕籠(かご)に揺られて桜散策をする観光客 5_売店では、町自慢の銘菓をはじめ、地酒や漬物、玉こんにゃくなどが大好評だった

春の訪れに笑顔満開 満開の桜が“おもてなし”

4月上旬、町内に7本ある古典桜のうちの一つである殿入ザクラが開花——待ちわびた春が古典桜の里にやってきました。

釜の越農村公園では、従来の名称から新たに生まれ変わった「しらたか古典桜の里さくらまつり」が4月14日からスタート。22日に行われた「さくらさくらステージ」には多くの家族連れなどが来場し、満開の桜やイベントを楽しみました。

4月21日には、釜の越サクラの下で恒例の「高玉芝居」が上演されました。穏やかな天候に恵まれたこともあり、この日の会場は満員御礼。力が入った演技に時折吹く桜吹雪が風情を引き立て、訪れた観客はこの地に200年以上続く義理人情劇に魅了されました。

このほか、かいもちや山菜料理が味わえる「十二の桜」会場や、茶席やコンサートなどのイベントが行われた「八乙女種まきザクラ」会場など、町内各地の桜スポットに町内外から多くの人々が訪れ、しらたかの春を楽しみました。

また、期間中の4月22日に開催された「～花ウォーク～さくら回廊そぞろ歩き」には、約50人という例年にない大勢の方に参加いただきました。途中、名物のかいもちや山菜汁を楽しみながら、蚕桑駅から四季の郷駅間約12kmのルートを歩き、町内に点在する古典桜を楽しみました。



1_協力しながら飾り付ける参加者 2_桜への思いが込められた絵馬

今年も元気にきれいに咲いてね 八乙女種まきザクラに飾り付け

4月5日、荒砥地区コミュニティセンターと八乙女種まきザクラ保存会(成原政只会長)の共催で、八乙女八幡神社境内にある「八乙女種まきザクラ」に、しめ縄や絵馬が飾りつけられました。

この日は、春休み中の荒砥小学校の児童たちと、同コミュニティセンターのグループ「ことぶき学級」のメンバーなど約25人が参加。絵馬には「きれいな花を見せてくれてありがとう」「これからも元気に咲いてね」といった思いが桜のイラストとともに描かれ、参加者はそれらを開花前の桜の木にやさしく取り付けました。

第63回山形県縦断駅伝競走大会 地元の声援に応える熱い走り

第63回山形県縦断駅伝競走大会が4月27日から29日の3日間で開催され、県内11チームの選手たちが1本の襷(たすき)に地域の思いを込め、新緑の山形路305.3kmを駆け抜けました。

今大会では、白鷹町から5人の選手が長井西置賜チームで出走。今年も白鷹中継所には多くの方が集まり、地元選手に熱い声援を送りました。そして、チームはその応援に応える走り、地元入りとなった2日目を2位と快走。3日間の総合で8位という結果を収めました。

白鷹町出走者：渡部功将 選手(山口)、手塚雄一朗 選手(十王) 紺野凌 選手(萩野)、紺野圭汰 選手(萩野) 高野光 選手(深山)



終盤に天童東村山チームとの接戦を制し、白鷹中継所を2位で通過した長井西置賜チーム

気持ちを新たに活躍を誓い合う 白鷹町スポーツ少年団合同結団式

4月14日、白鷹町スポーツ少年団合同結団式が荒砥小学校体育館で行われました。

今年度の団員は、21団体448人。向田俊一本部長より各団体へ団旗が授与され、団員を代表し白鷹ミニバスケットボールスポーツ少年団の中村雅楽くんが「スポーツをとおして世界中の友だちと力を合わせ、平和な世界をつくります」などと誓いのことばを宣誓。向田本部長は「同じ目標に向かって仲間とともに流す汗と涙、そして得られる感動は一生の宝となるはず。スポーツを通して心も体もやさしく、たくましくなってください」と言葉を贈りました。



向田本部長より団旗を受け取る各団体代表者たち

震災から学ぶ防災の重要性 金田巖先生による講演会を開催

4月27日、あゆ一むで開かれた白鷹町健康づくり推進員協議会総会において、「東日本大震災からみた地域医療」をテーマに記念講演会が行われました。

横田尻出身で今年3月まで石巻赤十字病院の院長をされていた金田巖先生を講師に迎えた今講演。町民の方など約170人が参加しました。金田先生は、副院長時代に経験された東日本大震災時の病院の様子について、写真などを交えながらわかりやすく解説。参加者はメモを取ったり金田先生へ質問するなど話に熱心に耳を傾け、震災から7年経った今、常日頃の防災の重要性を再確認しました。



パワーポイントを使ってわかりやすく解説する金田先生